

# 学会誌編集者と医学研究者による Structured Abstracts の評価

青木 仕  
順天堂大学図書館

**背景：**今日の医学論文の抄録には、本文と同様に、序文、方法、結果、考察といった見出しをつけ記載されているものがある。このような抄録を Structured Abstracts(SA)構造化抄録という。SA は、従来の抄録に比べ読者が読み易く、効率よく内容が理解できると言われている。1993 年よりバンクーバースタイルに採用され、EBM の観点からも推奨され今日その有用性が注目されている。

**目的：**本研究は、1.編集者による論文審査における SA の有用性。論文中における Abstracts の重要性。SA の認知時期。国内学会誌における SA の採用状況についてその実態を明らかにする。2.学会誌編集者と医学研究者を対象に SA の認知度、国内学会誌への普及とその条件を明らかにする。

**方法：**日本医学会・分科会 96 学会の編集者と医学研究者名簿から無作為抽出した研究者 300 名を対象にして、2003 年 6 月にアンケート調査を実施し、編集者 67 学会（有効回答率 69.8%）、研究者 129 名（有効回答率 43.0%）から回答を得た。回答結果の統計解析には、SPSS を用いカイ二乗検定・t-検定により編集者、研究者間での有意差を判定した。

**結果：**1.編集者による論文審査における SA の有用性は 61.2%が認めていた。論文中における Abstracts の重要性については、編集者 97.0%・研究者 97.7%が重要と認識し、関心が高かった。SA の認知時期は、編集者が「4 年前(1999 年)」を中心に山型の分布を示すのに対し、研究者の認知時期は広く分散していた。SA の採用状況は、「すでに採用している」20 学会(29.9%)、「近く採用の予定」2 学会(3.0%)、「検討中」18 学会(26.9%)、「予定はない」26 学会(38.8%)であった。臨床系学会編集者は基礎系学会編集者より SA についてよく周知し、臨床系学会誌は基礎系学会誌に比べ SA の採用率が高かった。

2.SA の認知度は編集者 88.1%・研究者 78.3%と共によく知っていた。SA の国内医学雑誌への普及の可能性は編集者 79.1%・研究者 61.3%が支持していた。SA の普及の条件は、「投稿規定に SA の記載を明記する」が最も重要な項目としてあげられた。編集者と研究者の間に有意差が認められた項目は、「バンクーバースタイルの認知」と「SA の国内医学雑誌への普及」であり、共に編集者の方が高値であった。

**結論：**SA の有用性は編集者、研究者ともに支持され、EBM の普及とともに認識されつつある。今後さらに我が国においても編集者、研究者により広く SA は普及し活用され、国内雑誌への普及も予測された。将来 SA はインターネット上の自然言語から XML 化への寄与や検索効率の向上などにもますます役立つものと期待される。